



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2024年11月25日 第1195号「週刊五十嵐レポート」

将来対策を

日曜の社長塾は、「経営計画の立て方」。その中で、「将来の事業に対する先行投資」がある。

ライフサイクルが示す通り、今売れている商品もやがて売れなくなる日が来る。どんな良い事業もいずれ凋落する運命にある。小売業、飲食業では立地にもライフサイクルがあり、人の動きが変わることがある。

特定の商品や特定の業界や地域に執着すると会社は衰退していく。こうならないために中長期の計画が必要になってくる。人員の3%~5%を将来対策に配分する。会社の規模が従業員30人の場合、1~2人。50人の場合、2~3人を将来対策に人を配分する。30人以内の会社では社長1人が担当することになる。

将来対策を考えている中小企業の社長は少ない。近隣に大型スーパーや量販店が出店してくると、商店街は影響を受けて倒産や廃業が多く出る。海外から安い商品が入ってくると、同じ商品を作っている会社は消えていってしまう。厳しいようだけれど、社長の研究不足である。社長は休日や業務時間外の時間を使って、将来対策の研究をすること。そうすれば、素早い対応ができるようになる。

11月24日付日経新聞、「狙われた日産、タイで苦戦」という記事。日産はタイで、約1000人規模の人員削減や配置転換を実施する。中国勢が日産中心にシェアの低い日系ブランドを狙い撃ちし、販売網を切り崩している。

日産は日本車大手では最も古い1952年にタイに参入。50~60年代にかけて自動車産業の成長をけん引。90年代の経営危機で後れをとり、日産にとってタイの重要度は相対的に下がった。22年から中国勢が本格化した。この1年で倍増。日産の販売店が中国系に置き換わっている。日産のほか、スズキ、マツダ、三菱自の販売店も中国系に鞍替えする動きがある(オセロゲーム)。

孫子の兵法、「勝ち易きに勝つ」。弱いところから崩していく。強者(トヨタ)には手を出さない。怖い!(東南アジア全域がやられてしまう。漫画「キングダム」のようだ)小さな会社は常に将来対策を怠りなく。

ちょっと
気になる出来事

11月22日付日経新聞「中国のバズワードで見る中国」という記事。不動産不況の長期化や人口減少など転機を迎えた中国。SNSへの市民の書き込みをみると、社会問題を端的に示した造語が溢れている。近く連載が始まる「転機の中国 14億人の素顔」の前にバズワード(流行語)を解説。

「躺平(タンピン)」「寝そべり」。成果主義に嫌気がさし、殻にこもる草食系(クサシキ)の生活スタイルを指す。高望みをしない。

「润(ルン)」ピンインは「run」で、「逃げる」の意味を持つ英語の「run」にひっかけた。海外移住を意味し、中国からの脱出。

「单身狗(ダンシェンゴウ)」「独身の犬」という意味で、独身の男女をいう。安定した生活基盤が築けないため、結婚までたどり着けない人が増えている。

「内卷(ネイジュアン)」「内側に巻き込まれる」から転じて、競争激化で消耗する状況を示す。

ついに中国も日本同様、「失われた〇〇年」に突入するのか。空いてる時間に日本語学校で日本語教師をしているが、大学受験逃れの中国の若者が多い。日本の競争は、ぬるい?



一口メモ
知識

文徳を修める

文徳を懿(よ)くす。

物事が滞(とどこお)って思うように進まない時は、文徳(ぶんとく)を修め、従順温和に勉める。

文徳は文武両道の武徳(ぶとく)に対する。武は表面的に戦う強さ。一方、文徳は内面の精神性、芸術性、知性をいう。

心を磨き高めることにより、打開の道が開けてくるということである。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

●「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時~12時

●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

TEL.03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

